

平成 28 年度 第 6 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

上坂 貴志 栗島 聡

Activity Report: Committee of Study Groups

Takashi Uesaka Satoshi Kurishima

研究委員会では現在 7 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 28 年 12 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

本研究会は、QFD (Quality Function Deployment : 品質機能展開) の考え方を援用することにより、情報の共有、知識の蓄積などを可能とする論理的なプロジェクト計画作成のための手法、方法論を検討することを目的に研究を行って来ました。最近では、QFD のみならず、プロジェクトにおける情報の定量化やシステム設計、さらにリスク分析など、QFD と関連の深い分野についても積極的に取り組んでいます。研究会の成果物は、研究発表会や国際会議において発表し、論文投稿を研究会員に奨励しています。現在は、プロジェクトの定量的管理を中心とした研究テーマでの議論を行っています。産学共同で、より深い議論を行うためにメンバーを募集しています。是非皆様方の研究会への参加、また皆様方からの情報の提供をお待ちしています。

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所)

プロジェクトの事例を収集し、そこから効果的なリスク・マネジメントの研修方法について検討をしています。また、新規性のあるリスク・マネジメント研修の内容について検討をしています。

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

【問い合わせ先】 yamamotot@nttdatacs.co.jp (山本)

(4) PM 人材育成研究会

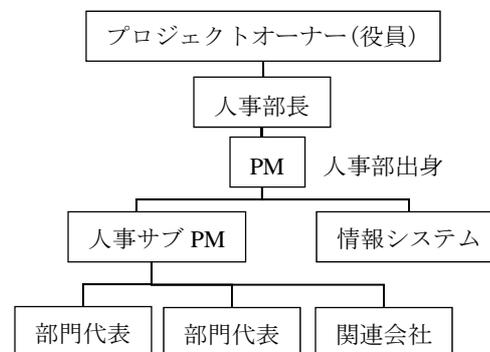
(主査: 池田 修一 ポジティブ・ラーニング)

プロジェクトに影響を及ぼすステークホルダーについての議論を継続して行っています。

10 - 11 月度の研究会では参加者が実施に経験したプロジェクトを題材にステークホルダー・マネジメントについて議論をしました。プロジェクトは人事制度改革プロジェクトであり、目的は以下になります。

- ① 時代に即した人事制度の設定 (マイナンバーなど)
- ② グループ会社間の人事制度の統一化
- ③ システムの統一化

システムは海外関連会社でも利用できるようにパッケージの導入を選択することになりました。



ステークホルダー図

この企業では、「給与」、「採用」、「評価」、「勤怠」などの方針、管理形態をグループ会社間で統一するという大きな命題があり、各関連会社の人事部門中心に数年前から検討が続けられてきました。その後、パッケージの導入にあたり、更なる効果が必要ということでプロジェクトオーナーから関連会社間での人の流動性を高め、グループ全体の価値を高めよとの指示がでて、新たに「コンピテンシー・マネジメント」についてスコープが追加されました。

しかしコンピテンシーに関連するスキル管理については、営業や R&D などの部門や関連会社です

でに検討され、システムが稼働していました。スキル管理については、各部門が職種別に独自の方針を立て、システムもうまく運用できていたために、「コンピテンシー・マネジメント」のパッケージ導入は、各部門から多くの反発が出て、プロジェクトの進捗が遅れる大きな原因となりました。

この問題となったプロジェクトをステークホルダー面から研究会で検討したところ、以下のような課題が抽出できました。

- ・そもそも PM は人事出身であり、プロジェクトマネジメントのスキル、経験が足りない
- ・PM が上下、左右のステークホルダーを抑えられない
- ・人事パッケージ導入が目的となっているところがあり、業務側スコープをステークホルダー全体で再検討する必要があった
- ・プロジェクトオーナーの「鶴の一声」がスコープ拡大に繋がった

さらに、このプロジェクトでは、スコープが拡大したことにより、影のステークホルダーが登場し、さらにプロジェクトを複雑化させました。

これらの課題を解決すべく、PM としてはどのようなステークホルダー・マネジメントをする必要があるかについて、今後さらに検討していく予定です。

今後の活動：

12 月度 プロジェクトに影響を及ぼすステークホルダー（続き）

【問い合わせ先】 pmcom2016@freeml.com

(5) メンタルヘルス研究会

（主査：前田 英行 日立公共システム）

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として、毎月 1 回の定例会と年 1 回の国内外各地におけるワークショップを中心に活動しています。

メンタルヘルス不調に陥らないためにはどうしたら良いか。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。

定例会は原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。5 名から 10 名程度のメンバーが参加し、プレゼンター（持ち回り）が議題を提示します。参加メンバーの対話を通して、メンタルヘルス問題の予防策となる知恵の創造を図ります。

＜参加メンバーが語る！「メンタルヘルス研究会」

の魅力とは＞

- ・メンタルヘルス不調に関する知見から、ポジティブ志向意識の重要性を把握できました！
- ・時として暗くなってしまうようなこのテーマを明るく前向きに語り合えるということが、本研究会の最大の魅力だと思います！
- ・会社関係者以外と知り合うことで、様々な考え方に触れることができ、仕事にも活かしています！

などなど。お気軽に体験参加してください。

【問い合わせ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(6) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

（主査：梶山 昌之 DSR）

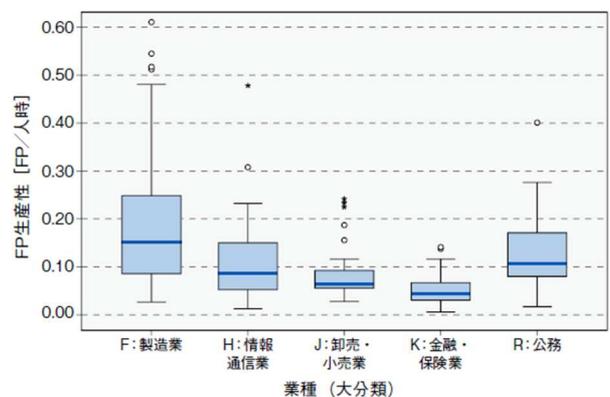
プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。

現在の学習・研究テーマとしては以下の 4 つになります。

- ① 要求を仕様化する技術
- ② R 言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用
- ④ ソフトウェアメトリクス統計分析

要求を仕様化する記述については USDM (Universal Specification Describing Manner) で記述された仕様書からファンクション・ポイント (FP) を計測する方法について研究中です。

9 月から新たなテーマとして「ソフトウェアメトリクス統計分析入門」(小池利和著) の書籍を対象とし、学習と研究を行っています。



業種別 FP 生産性

(出典: IPA/SEC 「ソフトウェア開発データ白書」
2012-2013, p. 228.)

図は書籍でも紹介されている事例ですが、ベンチマークのデータから、自社の生産性の妥当性を評価する方法が解説されています。例えば、あるプロジェクトの生産性が平均的な生産性より低い場合も、内容が金融・保険業に該当する場合は、生産性が低いと評価すべきではないかもしれません。

要求の仕様化技術を学びたい方、基本的な統計を初歩から学びたい方、または、ビッグデータとそのデータ処理技術に興味がある方には参加をお勧めします。

<今後の予定>

会合は1回/月を目安に開催しています。

当研究会では現時点までの活動で、Capers Jones 氏の見積のすべて、Excel 統計、コスト評価知識体系 (CEBoK)、要求の仕様化技術、R 言語による分析事例、データマイニング手法などのコンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。

また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です。

(7) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会

(主査：中村 太一 国立情報学研究所)

現在、暫定的に隔月の例会開催になっており、10月は休会で、11月24日に第38回の例会が開催されました。今回は、忘年会を兼ねて、参加者からフロネシスに関する話題を提供いただき、活発な意見交換が成されました。話題としては、メンタルヘルスの文化的違いについて、アメリカでは、メンタル不調者は基本的に個人の意向でプロジェクトから離れ、転属、転職などで、メンタルな負担を軽減する道を選ぶ、対して日本では、なんとかその場で頑張ろうとするなど仕事に対するメンタルマネジメントの違いがある。コンフリクトマネジメントでは、欧米では“事”に対峙し明示的にコンフリクトをマネジメントする、対して日本では、暗黙的に丸く収まる着地点を互いに模索する、など興味深い話題で盛り上がりました。

(次回は、2017年1月26日を予定しています。)

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】 pmKenkyu@jp.ibm.com

研究委員会委員長 上坂 貴志

研究委員会委員 笠崎 裕子/福村 文裕